

防コミの歩き方



地域おたすけガイドを活用して、地域の防災力の向上を ～ 八幡地区防災福祉コミュニティ ～

地区の特性

八幡地区自治会は、創立から60年余りが経過し、約5千世帯1万1千人が暮らしています。平成7年に発生した阪神・淡路大震災後に結成された八幡地区防災福祉コミュニティは、市内では59番目、灘区では6番目に結成されました。八幡地区は、多くの学生が生活している灘区の中心部に位置し、阪急六甲駅の北側を第一ブロック、南側の八幡神社周辺を第二ブロック、JR六甲道駅の北側を第三ブロックとしています。地形は南北方向に縦長で、高低差があり地域の連携を図るには難しい土地柄ではありますが、活発な自主防災活動の展開のために、それぞれの拠点に防災資機材庫を設置するとともに、昔ながらのコミュニティーを大切にしたい頃からの地域の連携を重視しています。

主な訓練

六甲小学校地域合同防災訓練を篠原防災福祉コミュニティと合同で毎年おこなっています。これは次世代の育成を目的としており、毎年冬頃に六甲小学校のグラウンドで約400名が参加し、AED、煙体験、バケツリレー、搬送方法、放水体験等の訓練を小学生対象に実施しています。消防団を交え、身近な資機材を使っての防災訓練をおこなうことにより、次世代への防災知識の普及を進めています。

また、2月11日の建国記念日には、六甲八幡神社で多くの地域住民やボーイスカウトの児童が参加して消火器、放水体験、バケツリレー等の基本的な訓練をおこない、

恒例となった炊き出し訓練でのカレーは大好評となっています。今後は、大学生や民生委員等にも参加を呼びかけ、災害時要援護者に対応できるような訓練も考えています。

地域おたすけガイドの作成

平成30年3月に、地域おたすけガイドが完成しました。各地域の役員が何度も集まり、意見を出し合った結果、互いに地域の住人が何を必要としているかを理解することができました。第一ブロックは土砂災害を中心に、第二・第三ブロックは地震対策を中心に災害発生時の防災活動がスムーズにおこなえるように、活動の手引き書にまとめました。現在は、効果的な運用ができるように検証を重ね、若い世代にも積極的に参加していただけるように意見を出し合っているとところです。今後も、八幡地区の地域が一丸となり、昔ながらのコミュニティーを大切にしたいと考えています。

(八幡地区防コミ会長 竹山幸夫)

